

外部評価委員から見た全カリ

山本 博聖

長い準備期間を経て1997年4月に全学共通カリキュラム運営センターが運営する新たな教養教育「全学共通カリキュラム」の全面展開がスタートした。全学で支える理念のもとに構想され、それを具体的に実践する組織として全カリは作り上げられている。

この3月で8年が経過する全カリは今年度外部評価を実施した。関根大阪女学院院長を委員長とする合計6名の外部委員の選定・委嘱、膨大な資料の送付、資料読み込みの依頼、そして10月に本学にて全委員参加のもとで学生諸君の協力も得てヒアリングを行っていただいた。各委員からのレポートが提出され、最終的に委員長から全体報告が届いた。本特集では、ヒアリングの筆録は省略したが、後日、ヒアリングの筆録も含めた全体的な報告書を取りまとめる予定である。

次ページ以降の外部評価委員の報告ならびに全カリ委員からのコメントをお読みいただく前に全カリの理念を改めて簡単に確認したい。

全カリ立ち上げ時期での議論において「専門性に立つ新しい教養人の育成」

がその理念とされた。具体的には「広い視野に立って課題を発見し解決する能力を身につけた人材の育成」であり、さらに2つの柱である言語教育科目と総合教育科目で次の目標が立てられた。言語科目は「外国語によるコミュニケーション能力と異文化対応能力の育成」であり、総合科目は「広い視野と判断力に基づく総合的な知性の涵養」である。また、言語においては、多文化との共生を視野に入れた異文化理解のため、英語を含めた複数の言語履修を義務付け、総合では、旧来の三分野からの完全な脱却を目指し、総合A群ではテーマ別での科目編成への転換を決定した。具体的なテーマは「思想・文化」「歴史・社会」「芸術・文学」「環境・人間」「生命・物質・宇宙」「数理」の6つである。これらを柱としてそれぞれで展開する科目については、キリスト教に基づく教育を建学の精神とする立教大学の特色を活かした科目群、市民として最低限身にしておくべき教養を培う科目群さらに日々変化する現状を見据えて未来を先取りしようとする科目群などを配置して目

標達成を目指すこととした。

目標達成のために全カリ運営センターが組織され、整備されてきた。科目運営とカリキュラム案作成を受け持つ教育研究室、案を協議する言語・総合の2つの構想小委員会、そして最終の意思決定は全学から選出された運営委員で構成する運営委員会が行う。それぞれの組織相互の関係や構成などの説明はここでは省略するが、全カリ運営センターがカリキュラム編成権、予算編成権ならびに専任教員人事権を有する組織として立ち上がった点が立教大学の大きな特色である。

「全学で支える」全カリのこれからを全カリをはじめとする全学で構想してゆくための重要な指摘をいただいた。関根委員長はじめ外部評価委員の皆様方への感謝をこの紙面を借りて表明したい。

なお、委員のお一人である田辺洋二先生は昨年12月に急逝された。先生のご冥福をお祈りする。

やまもと ひろまさ
(全学共通カリキュラム
運営センター部長、
本学理学部教授)